

# 鎌倉の埋蔵文化財23

Buried Cultural Properties in Kamakura 23

平成30年度発掘調査の概要



令和 2年 (2020) 3月  
鎌倉市教育委員会

## ～ごあいさつ～

私たちが暮らす鎌倉市は、源頼朝が武家政治を創始した地として知られ、中世に栄えた都市の跡をはじめとして、過去の人々の様々な生活の痕跡が地下に埋蔵文化財として数多く残されています。

これらの埋蔵文化財は、家屋の建築や、開発事業など様々な土木工事により失われてしまうことも少なくありません。これは、鎌倉の貴重な歴史遺産が失われることにもつながりますが、現代に生きる私たちが生活を営んでいく上では避けられないことでもあります。

このようにやむを得ず失われることとなる歴史遺産も、発掘調査を実施し、その調査成果と記録を着実に積み重ねて検証していくことで、鎌倉の歩んできた歴史の解明につながっていきます。

鎌倉市教育委員会では、発掘調査関係者の御協力を得ながら、この『鎌倉の埋蔵文化財』の発行をはじめ、遺跡調査速報展や鎌倉駅地下道ギャラリーでのパネル展、遺跡調査・研究発表会の開催などを通じて発掘調査の成果を広く紹介しています。また、平成29年5月に開館した鎌倉歴史文化交流館でも展示を行っています。

この『鎌倉の埋蔵文化財23』では、平成30年度に実施した発掘調査の中から、5つの調査地点の概要を紹介いたします。

これからも、様々なかたちで発掘調査の成果を公開するよう努めてまいりますので、文化財の保護に対する御理解と御協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

令和2(2020)年3月 鎌倉市教育委員会

## ～目次～

1	若宮大路周辺遺跡群 (小町二丁目55番12地点) .....	1
2	若宮大路周辺遺跡群 (雪ノ下一丁目161番43地点) .....	2
3	若宮大路周辺遺跡群 (雪ノ下一丁目148番1地点) .....	4
4	正法寺跡 (山ノ内173番1外地点) .....	8
5	東正院遺跡 (関谷1040番1外地点) .....	10
	英文要旨 .....	12

## ～例言～

◎本書は平成30年度に市内で実施した主な遺跡の発掘調査の概要を掲載しました。

◎本書は鎌倉市教育委員会文化財課が執筆・編集しました。

◎本書の作成にあたり、次の方々の御協力をいただきました。深く感謝いたします。(50音順、敬称略)

株式会社斉藤建設、株式会社博通、東宝東和株式会社、個人住宅の建築主の皆様

公益財団法人かながわ考古学財団(表紙及び5. 東正院遺跡の写真提供)

《表紙写真》 関谷上空から鎌倉市方面を臨む。(写真右上にあるのが江ノ島)(公益財団法人かながわ考古学財団)



## 1. 若宮大路周辺遺跡群(小町二丁目55番12地点)

Wakamiya-Oji-Shuhen-Isekigun Site

## 屋敷地を区切る溝

小町通りの東側に面したこの場所では、13世紀から14世紀頃の道路や溝、建物跡、土坑※などが見つかりました。

道路は東西方向、南北方向に走っており、東西方向の道路は13世紀中頃から14世紀前半まで使われていたと考えられます。また、道路には側溝があり、時期によっては簡易な木組みの護岸がありました。南北方向の道路は13世紀後半頃から14世紀前半まで使われていたようです。

本調査では杭で留められた板や、その周囲から礎石や礎板、柱穴などが多数見つかり建物跡と考えられますが、調査範囲が狭く、規模を復元することはできませんでした。出土した遺物は中国産磁器、漆器や下駄、木簡や形代などの墨書のある木製品、扇の骨、櫛、下駄、灯明皿など、食器類から日常用具・調度品などが多数見つかり、屋敷地の一角であると考えられます。

※土坑：土を掘りくぼめてできた穴のうち、柱穴より大きく、性格や機能の特定ができないもの。



写真1 道路検出状況(写真右が北)

(photo1) Status of road detection (right of photo is north)



## 2. 若宮大路周辺遺跡群(雪ノ下一丁目161番43地点)

Wakamiya-Oji-Shuhen-Isekigun Site

まじないのことは「蘇民将来の子孫なり」

この調査地点では13世紀後半から14世紀まで、大量の木製品や貝殻を含む土の上に砕いた泥岩をつき固めた生活面が、何層にもわたって造られていることがわかりました。

13世紀頃の面では囲炉裏や壁が残る建物跡が見つかり、板の壁には焼け焦げた跡なども残っていました。その後、建物があつた場所では土地の造成が繰り返され、14世紀頃の面では地面に焼土や炭が広がっていました。これらは火事の痕跡と考えられます。

出土品は、下駄や箸、草履芯などの木製品、漆塗りの碗や皿、貝殻、かわらけなどが多数出土しました。また、災い除けの呪符である蘇民将来\*札が見つっています。漆器製作に関係する工具である刷毛などが出土していることや、見つかった建物の構造から、この場所では職人などが活動していたと考えられます。

※蘇民将来：備後風土記に伝わる説話に登場する人物。神に宿を貸したよい行いの見返りに蘇民将来とその子孫はわざわいを免れることになったという説話がある。「蘇民将来の子孫である」と書いた札を家に掲げることでわざわい除けを祈願した。



写真2 蘇民将来札

(photo2) Somin Shorai note

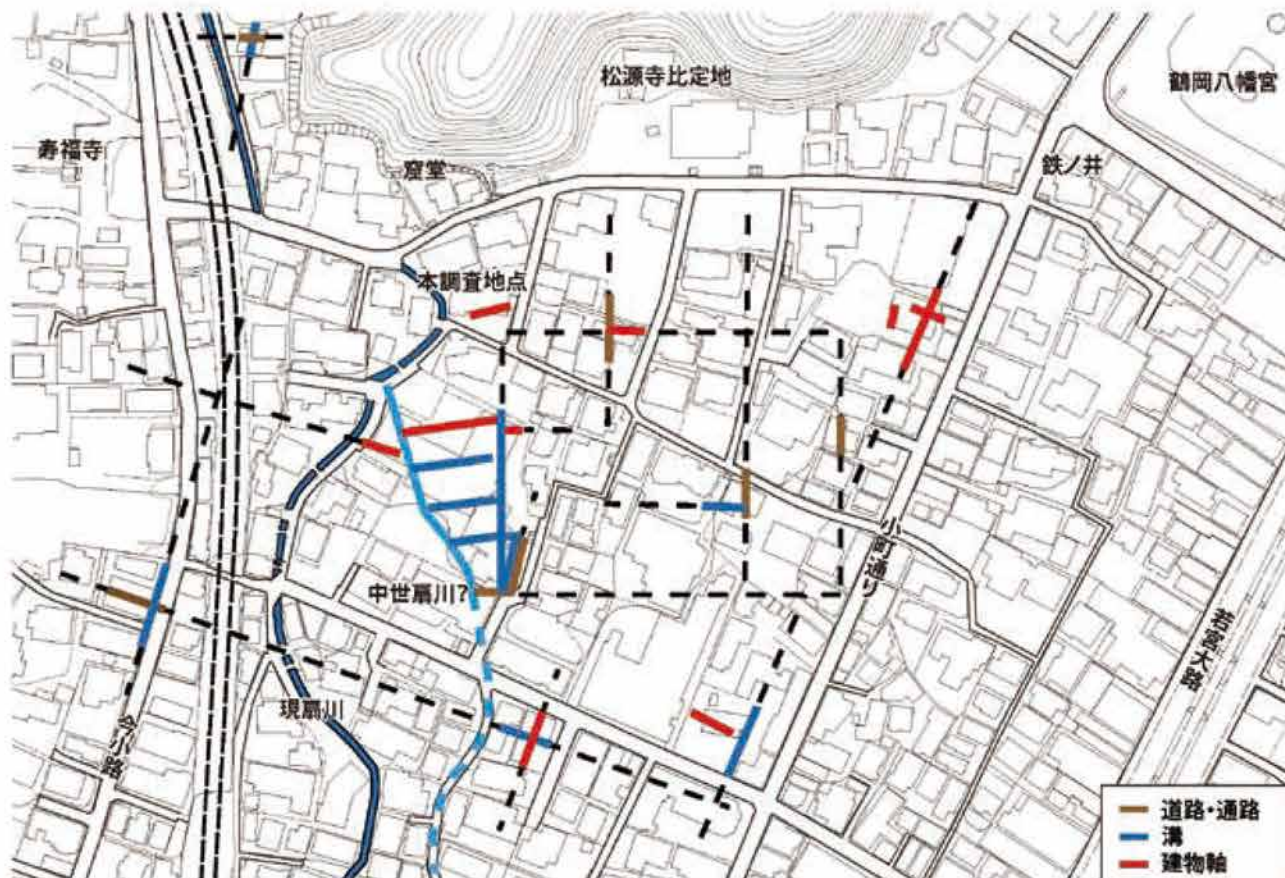


図1 調査地周辺の区割推定

(fig1) Estimated demarcation of north-west portion of Wakamiya-Ohji-Shuhen-Isekigun





写真 3 遺構検出状況  
(photo3) Status of remains detection



図 2 遺構配置図  
(fig2) Remains distribution illustration



### 3. 若宮大路周辺遺跡群(雪ノ下一丁目148番 1 地点)

Wakamiya-Oji-Shuhen-Isekigun Site

#### 起伏に富んでいた鎌倉時代の町並み

この調査では13世紀前半から15世紀にかけての遺構・遺物が見つかっています。過去に南隣で行った発掘調査(『鎌倉の埋蔵文化財18に掲載』)では敷地内に石畳敷の持仏堂※を持つ武家屋敷の一角が見つかり、今回調査された敷地と一体のものであると考えられます。本調査では多くの厨房(囲炉裏)が見つまっているほか、建物には薄い板や細い柱などの質の良い木材が用いられており、使用人が暮らしていた建物があったのかもしれません。箱状の木組遺構も、厨房に付属する施設であったと考えられます。

この場所では、鎌倉でよく出土するかわらけ、陶磁器のほかに大量の木製品をはじめとする様々な遺物が多く出土しており、往時の生活の様子がより身近に感じられます。

なお、鎌倉時代、13世紀前半の生活面は、現在の地表から4m以上深いところにありました。建物の屋根が今の小町通りの地面の高さの位置にあったことになります。一方、道路を挟んだ北側の敷地では同時期の生活面が現在の地表から40cm足らずの深さで見つかり、鎌倉時代のこの近辺の地形は現在とは大きく異なっていたようです。

※持仏堂：敷地内に生活する建物とは別に建てられたお堂。



写真4 調査地上空から(写真上に小町通り、写真左が北)

(photo4) Birds-eye view of survey site (photo top is Komachi-dori Street, left is north)





写真 5 箱状の木組遺構  
(photo5) A box-shaped wooden frame



写真 6 漆器  
(photo6) Lacquerware





写真7 かみそり 剃刀  
(photo7) Razor



写真8 ざる 笊  
(photo8) Colander





写真 9 白磁 水注<sup>すいちゅう</sup>  
 (photo9) White porcelain water vessel



写真 10 鋤<sup>すき</sup>  
 (photo10) Spade



## 4. 正法寺跡<sup>しょうぼうじあと</sup> (山ノ内173番1外地点)

Shoboji Temple-Ato Site

### 絵図に残る寺跡

正法寺は14世紀末頃に描かれた<sup>めいげついん</sup>明月院絵図に<sup>とくせんじ</sup>徳泉寺・<sup>あんこくじ</sup>安国寺・<sup>ほねいじ</sup>保寧寺とならんで描かれた寺で、この絵図を基に遺跡の名前がつけられています。現在では廃絶しており、開山や沿革なども不明です。

今回の調査では14世紀から15世紀の建物跡や、道路、石垣などが見つかりました。

見つかった道路及び側溝は本調査地点の前面を通る山ノ内道（現在の県道21号線主要地方道横浜鎌倉線）の往時の姿であると考えられます。

正法寺に直接関わる建物跡などは発見されませんでした。天目茶碗や茶入れなどの喫茶に用いられていた道具類や、瓦などが出土していることから、調査地付近に寺院の主要な建物があったと考えられます。調査地点の谷戸の奥には一段高い平場があり、寺院の中心は付近を一望できるその平場にあった可能性もあります。



写真 11 調査地上空から（写真左が北）

(photo11) Survey site from above (photo left is north)





写真 12 道路跡（左）と側溝（右）  
(photo12) Remnants of road (left) and ditch (right)



写真 13 泥岩を敷き詰めて造られた道路跡  
(photo13) Remnants of road made from crushed mudstone



## 5. 東正院遺跡<sup>とうしょういん いせき</sup> (関谷1040番 1 外地点)

Tosho-in-Iseki Site

### 北海道から運ばれてきた石材

調査地点は大船駅の北西約2.7kmの台地上に位置しています。過去、近隣の調査では、縄文時代後期の集落跡が発見されています。今回は縄文時代早期(約 1 万1000年から7000年前)、前期(約7000年から5500年前)、後期(約4500年から3300年前)の遺跡が見つかりました。早期は竪穴住居 2 軒、集石19基、焼土跡 2 基、土坑・落とし穴21基が見つかり、住居と狩猟場であったことがわかりました。前期は竪穴住居 2 軒、焼土跡 1 基、土坑 5 基が見つかりました。土坑からは磨製石斧や石製垂飾品<sup>※</sup>が出土し、墓と推測されます。前期に住居と墓域へと土地利用が変わったようです。磨製石斧は現在の北海道日高地方で産出する緑色岩製で、神奈川県内では初めての出土です。後期では柱穴 1 基が見つかりました。この調査で出土した縄文土器の型式は早期が大浦山式、平坂式、東山式、前期が十三菩提式、大木 6 式、大歳山式、中期が勝坂式、後期が堀之内式、称名寺式です。

さらにその下層からは、後期旧石器時代後半(約 2 万3000年～1 万9000年前)の石刃が 1 点出土しました。鎌倉市内で旧石器時代の石器が出土することは大変珍しいことです。

※垂飾品：装身具の一つ。主に石や骨などで作られ、紐を通して首飾りのように使われていたと考えられる。



写真 14 磨製石斧 (長さ約 17cm)

(photo14) Polished stone axe (length approx. 17cm)





写真 15 竪穴住居跡 (右)  
(photo15) Pit dwellings

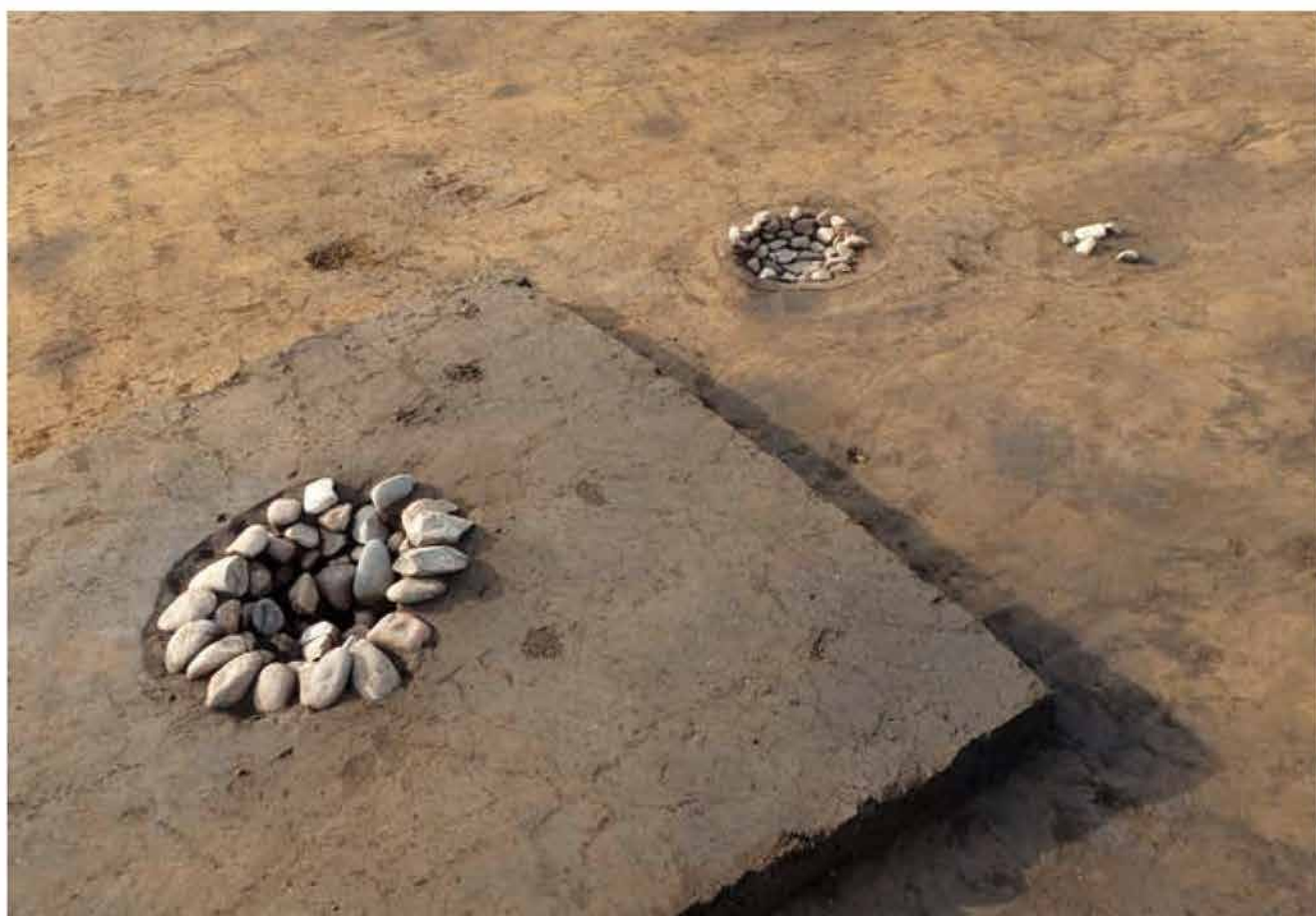


写真 16 集石遺構  
(photo16) Remnants of rock pilings



# Buried Cultural Properties in Kamakura 23

## 1 . Wakamiya-Ohji-Shuhen-Isekigun Site

(Komachi 2 -55 and 12 other locations)

### A ditch that segments premises

The research area is situated along the east side of Komachi-dori Street. Discoveries here include roads and ditches, remains of structures, and pits from the 13th to around the 14th centuries. Two roads were found, one ran in an east-to-west direction, and another extended south to north, as well as a simple timber-frame revetment. Also found was a cornerstone, foundation plate, pillar holes and numerous other items from the vicinity of boards that had been pinned to pilings thought to be the remains of a structure. However, given the narrow scope of the research, it was impossible to interpret the scale of the structure. Unearthed artifacts included shipborne goods of Chinese-made porcelain and lacquerware, wooden “geta” clog-type shoes, wooden items with ink inscriptions such as wooden strips for official messages and representations of sacred objects, and daily use items and furnishings, from eating utensils to fan ribs, combs, wooden geta shoes, light plates, and other items. It was understood that this site was one corner of a premises.

## 2 . Wakamiya-Ohji-Shuhen-Isekigun Site

(Yukinoshita 1 -161 and 43 other locations)

### A talismanic expression: “Descendants of Somin Shorai”

At this survey site, it was determined that from the 13th to 14th centuries earth containing a great volume of wooden items and shells was overlaid with crushed mudstone and compacted for a hardened surface, and that this was a construction of multiple layers.

Discovered here were the remains of a structure with the remnants of scorched wooden wall from around the 13th century. On the surface, from approximately the 14th century, charred earth and ash became more prevalent, and this is believed to be the vestiges of a fire.

Numerous artifacts were unearthed, including wooden items such as wooden geta shoes, chop sticks and “zori” sandal cores, as well as lacquerware bowls and dishes, shells, and unglazed earthenware. In addition, there was the discovery of a *Somin Shorai* note, which is a talisman used to ward off misfortune. Other items included a brush used as a tool in lacquerware production, and from the construction of structures, it was determined that craftsmen were active.

*Somin Shorai*: A character that appears in folk stories conveyed in the “Bingo-no-kuni Fudoki” (regional gazetteers of Bingo Province). There is the folk story in which, in return for having granted lodgings to a deity, Somin Shorai and his descendants would stave off misfortune. This is why placing a note that states “Somin Shorai and Descendants” is said to ward off calamities.

## 3 . Wakamiya-Ohji-Shuhen-Isekigun Site

(Yukinoshita 1 -148 and one other location)

### The undulating roads of the Kamakura period

This survey revealed remains and artifacts from the first half of the 13th to the 15th centuries. It is thought that the samurai residence, adjacent and to the south, that had a cobblestone *jibutsudo* that had previously been excavated (as stated in “Buried Cultural Properties in Kamakura 18”), is the same building as in this survey. In addition to the many kitchens (hearths), the building was constructed using narrow boards, thin pillars and other low-quality materials, and it may have been a building that housed workers. A box-shaped wooden frame is also believed to have been a kitchen facility.

This site’s approximately 13th century Kamakura period surface was over 4 m below the present-day surface. That means that the one-story structure’s pillars were at the same position as the current Komachi-dori Street’s surface. On the other hand, on the north side that sandwiches the road, the



surface at that time wasn't even 40cm below the current surface. Apparently, the terrain of this vicinity during the Kamakura period was significantly different than that of today.

*Jibutsudo*: A temple constructed within the grounds, but separate from living quarters. Today this would be indicative of a Buddhist temple or altar.

## 4. Shoboji Temple-Ato Site

### (Yamanouchi 173 and one other external location)

#### Temple ruins that exist only in illustration

Shoboji is a temple that fell in line along with Tokusenji Temple, Ankokuji Temple and Honeiji Temple, as illustrated in the Meigetsu-in Temple document that was drawn up toward the end of the 14th century. This is where the name for the ruins originated. In the present day it has been erased from history, and its founding, timeline and other information is unknown. The current survey led to the discovery of the remnants of a structure from the 14th to 15th century, along with roads, stone walls, and other items. The roads and ditches are believed to represent the former appearance of the Yamanouchi Road (present day Kanagawa Prefectural Road Route 21), which crosses through the previous surface.

The remains of buildings and other items associated with Shoboji Temple were not discovered. However, the excavation of a dark-glazed conical tea-bowl, teacups and other tea house paraphernalia, as well as tiles and other items, leads to the belief that a temple existed in that vicinity. At the rear of a valley in another site of the survey there was a flat space a step higher than the surrounding area, and it can be inferred that the temple was primarily in that flat place where it was possible to look out at adjacent areas.

## 5. Tosho-in-Iseki Site (Sekiya 1040 and one other external location)

#### Stone materials transported from Hokkaido

The survey site is situated on an elevated area approximately 2.7km northwest of Ofuna Station. It was understood through the survey that from the Initial Jomon to the Late Jomon periods (about 11,000 to 3,300 years ago) this area was inhabited, with hunting grounds and grave sites. Discovered were two pit dwellings from the Initial Jomon, as well as 19 rock pilings, two traces of burnt soil, and 21 pits and post holes. From the Early Jomon period, the survey found two pit dwellings, one trace of burnt soil, and five pits. Grave excavation revealed a polished stone axe and stone *hanging ornaments*. The polished stone axe was made from greenstone that originated from Hidaka, Hokkaido, and marked the first time such an object had been excavated in Kanagawa Prefecture.

In addition, the types of excavated Jomon pottery were Ourayama, Heizaka and Higashiyama from the Initial Jomon period, and in the Early Jomon, Jusan-Bodai, Daiki 6, and Otoshiyama, while from the Middle Jomon, there was Katsusaka, and from Late Jomon, Horinouchi and Shomyoji.

Furthermore, from the underlayer there emerged one stone knife from the latter Paleolithic (approximately 23,000 to 19,000 years ago). It is incredibly rare for a Paleolithic stone tool to be discovered within Kamakura City.

*Hanging ornaments*: A type of personal adornment. It is believed that they were used as a string necklace, and made mainly from stone, bone or other material.



写真 17 若宮大路周辺遺跡群(雪ノ下一丁目 148 番 1 地点)

出土 鋏

(photo17) Scissors



## 本書掲載の調査地点



### 《掲載遺跡名称及び所在地一覧》

- |   |   |                      |
|---|---|----------------------|
| 1 | 若宮大路周辺遺跡群<br><small>わかみやおお じ しゅうへん い せきぐん</small> | (小町二丁目 55 番 12 地点)   |
| 2 | 若宮大路周辺遺跡群<br><small>わかみやおお じ しゅうへん い せきぐん</small> | (雪ノ下一丁目 161 番 43 地点) |
| 3 | 若宮大路周辺遺跡群<br><small>わかみやおお じ しゅうへん い せきぐん</small> | (雪ノ下一丁目 148 番 1 地点)  |
| 4 | 正法寺跡<br><small>しょうぼう じ あと</small>                 | (山ノ内 173 番 1 外地点)    |
| 5 | 東正院遺跡<br><small>とうしょういん い せき</small>              | (関谷 1040 番 1 外地点)    |

## 鎌倉の埋蔵文化財 23

発行日 令和2年(2020)3月30日  
編集・発行 鎌倉市教育委員会  
〒248-8686 鎌倉市御成町18番10号  
TEL : 0467 (61) 3857 FAX : 0467 (23) 1085  
E-mail : bunkazai@city.kamakura.kanagawa.jp  
印刷 株式会社ポートサイド印刷